



# 学校だより

学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第8号

令和3年7月20日発行  
文責 校長 宮地 浩幸

## 1 学期の反省

私にとって、加唐小中学校の校長として2年目の1学期を終えることができました。本年度もコロナ禍にあって、例年通りの学校経営とはいかなかったと思いますが、確かな子供たちの成長を感じます。4月に、小学校への2人の新入生を迎えたわけですが、すっかり小学生としての立ち振る舞いになっています。授業の様子も、落ち着いて学びに向かう様子に精神的な成長を感じることができます。

さて、早くも令和3年度の1学期が終了しましたが、総じて学校は計画通りに進んでいます。今年も島民の皆様との体育大会はかないませんでした。学校と保育所で、立派な体育大会ができたと思います。学校の年齢構成が昨年度と異なり低年齢化したため、どこまでできるか心配していた面がありますが、子ども達は精一杯の競技する姿を見せてくれ、学校体育の成果や健康教育の下での体力の向上を示すことができたことを嬉しく思います。また、今年は水泳の授業も再開しました。消防団の皆様のおかげで、プールがきれいになり、安心して不易な教育活動を実施できていることに大変感謝申し上げます。今年の梅雨入りは早かったものの、6月は雨も少なく、暑い日が続いたせいで、プールの授業は大盛況でした。校長室にも歓喜の響きがとどろき、プールを見てみると楽しそうな子ども達の姿がありました。この様子を見ていると暑い夏にはプールは絶対に欠かすことのできない、教育施設であると再認識できます。



水泳の授業

## 6月の全校集会

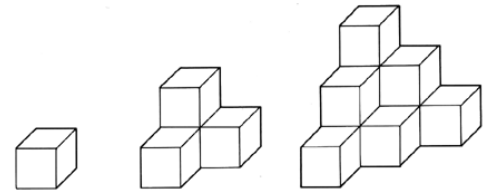
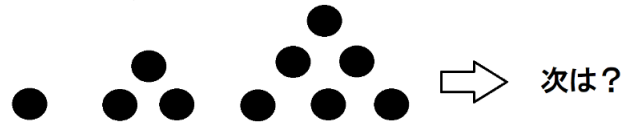
小学1年生から中学2年生まで幅が広い学年構成の中で子ども達を一堂に会して校長が話をすることは、かなり難しいものがあります。そこで今年から、小学校低学年と小学校高学年・中学生に分けて話をすることにしました。しかし、全く別の内容で話をするのではなく、同じ教材を使い発達段階に合わせた内容にならないか少し工夫をして集会の話とすることにしました。

今回のテーマは、「次がわかりますか？」です。子ども達に数の並びを見て、その次に来る数字を当ててもらおうと思いました。子ども達は算数や数学により数についての性質や計算、規則性などを学びます。例えば小学1年生は数の読み取り（個数を数値にすること）や簡単な足し算、引き算を勉強します。これは学年が上がるにつれて複雑で難しいものになって行きます。今回、数について、具体的な内容から抽象的な内容へ発達段階に合わせた操作を促しました。小学1年生に「1, 2, 3, 4, 5の次は？」、「10, 20, 30, 40, 50の次は？」、小学2年生に「2, 4, 6, 8, 10の次は？」子ども達はスムーズに解答できました。そして小学3年生に「5, 10, 15, …, 55, 0, 5 これは何？」を尋ねると戸惑いを隠せませんでした。周りの子ども達もいろいろ意見を言い始めます。みんなで考えるのはとても楽しい

事です。校長はもったいぶって、壁にある丸いものを見てくださいというと「時計」と解答がでます。最後に小学生には右の図についての解答をみんなで考えてもらいました。

規則性に気づき、数を数えることができれば、容易に答えを見出すことができます。発達が異なる異学年でも協力して、解答を導き出すことができました。しかし、「1、3、6、10、15 次は？」と言われたらどうでしょう。かなり難しくなり多分小学生では手に負えない内容になります。今回、子ども達に伝えたい内容は少しこじつけになりますが、予測することによって備えを行うということです。今年は梅雨入りが早かったのですがあまり雨が降りませんでした。今後、水不足になる可能性もありますので、天気予報や熱中症情報で子ども達の発達の程度に応じた危機管理ができればと意図しました。この教材で中学生に話をする時には、先に数字の列を示して、次の数を尋ねてからヒントとして図を示します。展開を小学生とは逆にします。規則性をつかむことを目的とするのです。そして、先の図を活用できるかを次の図で考えます。次の積み木の個数を示すのは、なかなか難しいのですが、自分で作図する中で解答が見つかりました。

中学生には、「どのような情報を得て、これからのことに対応するか」について考えて欲しいと思いました。小学校段階では与えられた情報をどう活用するかにとどめますが、中学生になれば、備えるためにはどのような情報が必要かというのを考えて欲しいと思いました。本校のような異学年の少人数集団では、いろいろ教材を工夫します。加唐小中学校は職員も日々学んでいます。



## 母は子どものことが何より心配

7月6日(火)に上田先生によるほんわかタイムを行いました。話の内容は、母親の子どもに対する愛情のことです。昨年度の1学期はほんわかタイムを中心に「命」について子ども達はいろいろ学びましたが、上田先生の話にも大切な命についての学びを深めることができましたと思います。先生には3人のお子さんがいらっしゃいますが、子ども達がおなかの中にいる時に、ふとしたことで胎児が動かなくなるというも大丈夫なのだろうか「命」の心配をすることが多かったと言われました。私も、2人の子どものがいますので、妊娠しているときのお母さんの大変さは実際に見てきました。妊娠をされたお母さん方には、おなかに子どもを抱えている直接的な体験をされているわけで、私たち父親には想像できないことも数多くあると思います。例えば上田先生の話では、「妊娠中は動けない、食べれない、急激に体重が減るために点滴で栄養を取っていた」ということでした。まさに母親は命がけで出産するのだということを実感させられます。多分そんなことは知らずに、加唐小中学校で学んでいる子ども達は、毎日元気に登校し、普通に学校生活を送っています。もちろん親にとってはそれが最も望ましい事であり、子ども達の健やかな成長を願うばかりです。



## 充実した夏休みに

いよいよ子ども達が楽しみにしていた夏休みが始まります。しばらく授業に関わる登校がストップしますので、その間にしかできないことを頑張ってくださいと思います。例えば、勉強で苦手だと感じたことを克服するとか、本をたくさん読むとか、スポーツを頑張るとかそれぞれの思いに合わせて、何かを頑張ったと思える夏休みにしてほしいと思います。そのためには、規則正しい生活のリズムが欠かせません。「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、健康管理に気を付けてください。